

【報告】

「保健師の集い」の経緯と今後の課題と展望

遠山 大成 三輪 眞知子 江口 晶子 長山 ひかる

聖隷クリストファー大学看護学部

The History, Future Challenges, and Prospects of the Gathering of Public Health Nurses

Taisei Toyama, Machiko Miwa, Akiko Eguchi, Hikaru Nagayama

School of Nursing, Seirei Christopher University

《抄録》

聖隷クリストファー大学（以下、本学）では、保健師として働く卒業生の情報交換、交流、卒後教育を目的として、2000（平成12）年度より「保健師の集い」を23年間にわたり実施している。卒業生のニーズに合わせた講義と卒業生の実践報告を分科会として行いながら在校生と卒業生の交流を深めてきた。2017（平成29）年度からはより多くの卒業生が参加できることを考え、本学の卒業生が集うホームカミングデーの日程に合わせて「保健師の集い」を実施している。内容は卒業生が実行委員となり、自身の困りごとを中心にテーマを決め、講演会、参加者同士の学習会、交流会などである。参加者は「保健師の集い」を通して、保健師のイメージが持てたり、悩みを共有したりなどネットワークや交流の場となっていた。

そこで、「保健師の集い」は卒業生が生涯を通じての保健師専門職能力向上や保健師の活動の質担保に貢献できるのではないかと考え、今後の課題と展望について検討した。今後は、「保健師の集い」のテーマ設定や周知の方法を検討することや、保健師専門職としての質担保になるよう卒業生・在校生、教員、そして自治体保健師や産業保健師の方と共に企画運営をすることが必要であると考えられた。

《キーワード》

保健師、卒業生、在校生、交流、保健師の活動の質担保

I. はじめに

近年、健康格差の拡がりや家族・地域とのつながりの希薄化が進む中、保健師には複雑化する健康問題に対応できる直接的な保健サービス等の提供やマネジメント、事業化・施策化ができるなど保健活動の質の高さが求められている。質の高い保健師を育成するためには、講義や演習で培った知識、技術、態度の統合を図り「知る・わかる」の段階から「実践できる」の段階に到達させるため、実習における体験が重要となる（松井ら、2021）。

しかし、本学は看護教育4年間の中で保健師課程教育を行っており、「知る・わかる」の段階から「実践できる」の段階に到達させるのは極めて困難な状況である。文部科学省（2011）は「看護系大学は、卒業生が生涯を通じて看護専門職としての能力を向上させ、発揮し続けることを組織的に支援するための体制等についても今後検討すべきである」と述べており、大学が卒後教育を行い自治体とともに保健師の人材育成を行うことは重要であると考えられる。

本学では、本学保健師就職者を対象に2000（平成12）年度からほとんど毎年「保健師の集い」と称して、保健師として就職した者を集め講演会や交流会を開催している。この場は卒業生が生涯を通じて保健師の専門職能力を向上することや保健師の活動の質担保につながるのではないかと考え、本報告では「保健師の集い」の経緯や実施内容について記述的な検討を行い、今後の課題と展望について検討することとした。

II. 倫理的配慮

すでに公表済みの紀要に掲載されている内容については出典を明らかにし、学内の電子データについては個人が特定できない様に配慮した。

III. 本学の新規卒業生の保健師就職の概要

1. 本学新規卒業生の保健師就職者の推移

本学では、1992（平成4）年度の建学以来、看護学部内に保健師養成課程を設置し、1992（平成4）年は1年次定員100名、2004（平成16）年度からは1年次定員140名、2007（平成19）年度からは1年次定員145名の看護師と保健師の統合教育、2012（平成24）年度から1年次定員145名のうち保健師課程80名の保健師課程選択制、2016（平成28）年度から1年次定員150名のうち保健師課程80名の保健師課程選択制となっている。

1992（平成4）～2022（令和4）年度までの保健師就職者は259名であり、その内訳は、健診センター等の産業保健分野81名、都道府県や市町村で勤務する行政分野は178名である。新規卒業生の保健師就職の推移については図1に示した。産業保健分野と行政分野を合わせた新規卒業生の就職者は1998（平成10）年度の22名から2009（平成21）年度の3名と幅があった。全体では平均 9.3 ± 4.6 名（平均値±標準偏差）、産業保健分では平均 2.9 ± 1.9 名、行政分野では平均 6.4 ± 4.3 名、直近5年間では平均 6.4 ± 0.5 名、産業保健分野では平均 2.0 ± 1.1 名、行政分野では平均 3.6 ± 1.3 名が保健師として就職している。

2. 本学新規卒業生の行政分野での就職先

1995（平成7）年度から2022（令和4）年度の本学新規卒業生の行政分野での就職先について表1に示した。

静岡県内の就職先については、合計28か所の自治体に就職しており、静岡県、県内市町は、政令市である静岡市、浜松市の2市、西部地区では7市町、中部地区では6市町、東部地区では7市、伊豆地区では5市町となっており、県内35市町のうち27市町と約7割以上の県内自治体に保健師として就職をして

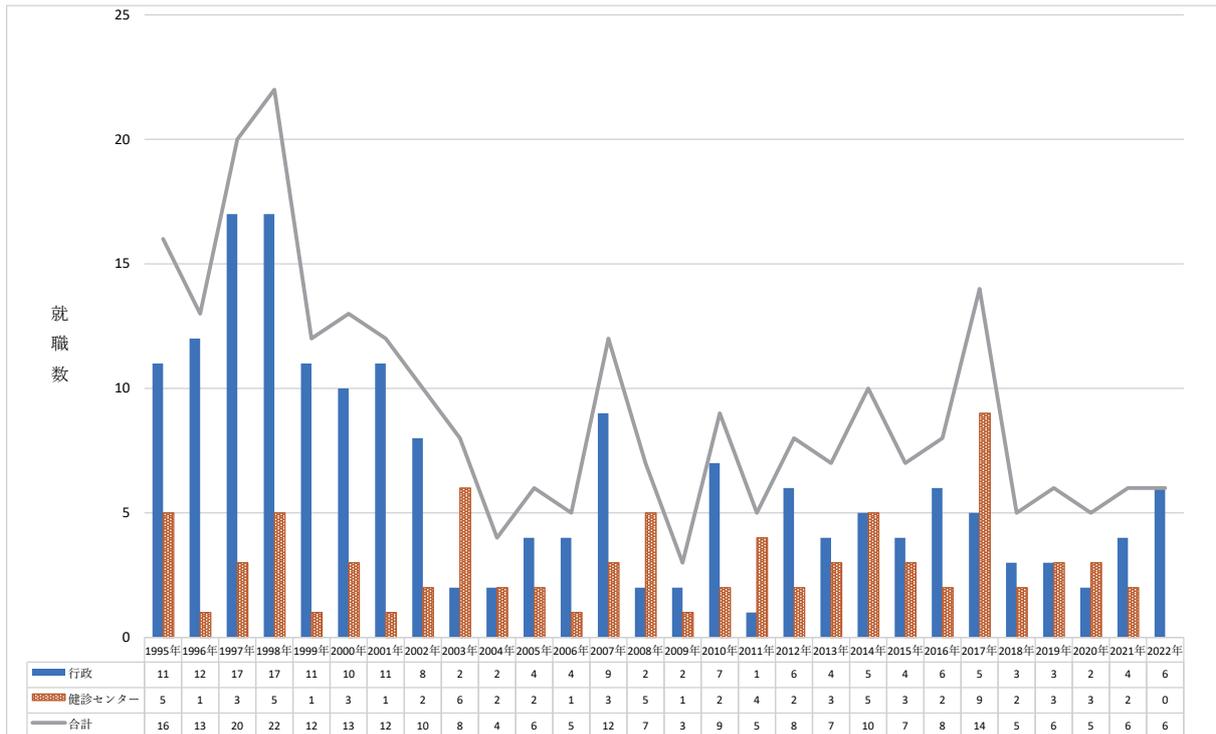


図 1. 新規卒業者の保健師就職数の推移

いる。

静岡県外の就職先については、合計 52 か所の自治体に就職をしていた。県採用としては、千葉県、岩手県、岐阜県の 3 県に就職している。県外市町村採用は栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、滋賀県、兵庫県、奈良県、岡山県、高知県、徳島県、沖縄県の 19 県の中の 49 市区町村（特別区を含む）へ就職をしており、全国 47 都道府県のうち、20 都県で本学での新規卒業者が県及び市区町村で勤務する保健師として就職をしている。

Ⅳ. 「保健師の集い」の経緯

1. 「保健師の集い」の目的と対象

「保健師の集い」は、2000（平成 12）年度から、本学の卒業生のうち行政で働く保健師を対象として、各市区町村での情報交換、卒業生の交流、卒後の大学における教育などを目的に年 1 回の開催でスタートさせ（鈴木他、

2003）、今年度で 23 年目になる。当初は行政で働く保健師を対象としていたが、2004（平成 16）年度に開催された第 5 回「保健師の集い」（鈴木他、2006）では、企業で働く産業保健師の活動を報告する分科会も行い、対象を産業で働く保健師も含めることで、「保健師の集い」の対象の拡大を図った。

2017（平成 29）年度から、より多くの卒業生や在校生が参加できるように本学の卒業生が集うホームカミングデーの日程に合わせて開催し、新規卒業後 1、2 年目に実行委員を担ってもらうことで保健師の活動に悩み、戸惑うことが多いこの時期を仲間と語りあうことで乗り越えられることであった。また、保健師希望の在校生への参加を促し、先輩保健師との交流も図っていた。

2. 「保健師の集い」の内容について

表 2 に「保健師の集い」の内容の年次推移を示す。開催当初から、本学の卒業生が実行委員になり、保健師として活動をしていく中での困りごとなど卒業生のニーズに沿った

表 1. 新規卒業者（1995 年度から 2022 年度）の就職先自治体

		就職先自治体	就職先自治体数
静岡県		静岡県	1
静岡県政令市		静岡市 浜松市	2
静岡県政令市以外の市町	西部地区	湖西市、磐田市、掛川市、袋井市、御前崎市、菊川市、森町、	7
	中部地区	森町、島田市、藤枝市、牧之原市、焼津市、吉田町	6
	東部地区	富士宮市、富士市、沼津市、裾野市、清水町、三島市、御殿場市	7
	伊豆地区	函南町、熱海市、伊豆の国市、伊東市、伊豆市	5
県外 都道府県	千葉県、岩手県、岐阜県	3	
県外 市町村	栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、富山県、石川県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、滋賀県、兵庫県、奈良県、岡山県、高知県、徳島県、沖縄県 上記 19 県内の 49 市区町村	49	
		合計	80

テーマ設定を行っている。

第 2 回から第 6 回、第 12 回の「保健師の集い」では、本学教員や外部講師によるその時々の公衆衛生看護のトピックに合わせた講演と、行政および産業保健分野で活躍する保健師の活動報告、大学院への進学に関する情報提供や説明などが行われていた。第 13 回から第 15 回の保健師の集いでは、テーマを決めてのグループワークや、行政および産業

保健分野での活動報告を経てのグループディスカッションを行い、参加者の意見交換や交流会が行われていた。第 17 回と第 18 回ではコーチングスキルや禁煙指導に関する外部講師による講義後に、グループディスカッションを行い、保健師のスキルアップに関する勉強会が行われていた。第 19 回から第 21 回では、「自らの保健師像」、「キャリア」、「コロナ禍における保健師の活躍」について語るグ

表2. 「保健師の集い」の内容の年次推移

回	開催日時	「保健師の集い」の内容
1	2000年度記録なし	
2	2002年 3月2日(土)	①講演「健康日本21と保健計画について」 ②分科会 分科会1:家族援助について 分科会2:個別健康教育について 分科会3:精神保健相談について
3	2003年 3月8日(土)	①講演「育児不安と虐待/事例から学ぶ」 ②分科会 分科会1:「育児機能アセスメントのための乳幼児問診票の開発」の概要 分科会2:「健康日本21の地方版」の概要 分科会4:「健康診査の事後フォロー」の概要 分科会3:「痴呆予防対策」の概要
4	2004年 3月13日(土)	①講演「21世紀に求められる保健師の役割」 ②分科会 テーマ「保健師の関わりについて考えてみよう」 分科会1:「痴呆予防教室を地域の主体的なグループ活動に発展させていくための保健師の関わり」について考えてみよう 分科会2:「多機関で支えた育児能力の低い家庭の支援—小児虐待ボーダーケースへの保健師の関わり—」について考えてみよう 分科会3:「精神障害者へのかかわり—困難事例を通して—」について考えてみよう
5	2005年 3月5日(土)	①分科会 テーマ「保健師の活動を文字にしよう」 分科会1:「新生児及び乳幼児訪問における母親・母子関係のチェックについて—EPDS、育児機能アセスメントツールを導入して—」 分科会2:「B町認知症予防教室の取り組み—3年間の地域支援から見つけた保健師の役割—」 分科会3:「産業保健と地域との連携」 ②記念講演「保健師として教育・研究を振り返って」
6	2006年 3月11日(土)	①講演「看護実践における倫理—保健師活動と倫理的問題—」 ②活動報告「私のステップ・アップ—大学院—」
7~11	2006~2010年度記録なし	
12	2012年 3月17日(土)	テーマ「住民に求められる保健師をめざして」 ①活動発表 活動発表1:「継続家庭訪問を通しての学び、そして個別支援から地域支援へ」 活動発表2:「住民ニーズより既存の妊婦教室の改革に取り組む」 ②講演「これからの公衆衛生看護に求められるもの」 ③分科会・交流会 分科会1:行政保健師分野:「新型インフルエンザ対策と保健師活動」 分科会2:産業保健師分野:交流会 分科会3:日本公衆衛生看護研究会地域部会
13	2013年 3月16日(土)	テーマ「住民に求められる保健師をめざして、私たちのチャレンジ」 ①グループワーク「個人の問題を地域の問題としてとらえる」 ②グループワークに対する学内教員先生よりコメント
14	2014年 11月1日(土)	テーマ「専門職の成長を聴き合おう—産業保健分野で働く保健師からのメッセージ」 グループディスカッション
15	2015年 12月19日(土)	テーマ「産業保健活動と行政保健活動の繋がりを強めるための情報や意見交換をしよう!」 ①話題提供 テーマ:A市の「実践事業所認定制度」の活動報告 ②グループディスカッション
16	2016年度記録なし	
17	2017年 11月4日(土)	テーマ「ともに学ぶコーチング 人間関係いまのままでいいですか?」 ①講師による講義 ②講義を通してのグループディスカッション *17回以降ホームカミングデイと同日開催、卒後1~2年の卒業生が実行委員として運営
18	2018年 11月3日(土)	テーマ「エビデンスに基づいた禁煙指導」 ①講師による講義 ②講義を通してのグループディスカッション
19	2019年 11月2日(土)	テーマ「自分が思う保健師像を語ろう」 グループディスカッション
20	2020年 11月7日(土)	テーマ「自分のキャリアを語ろう」 グループディスカッション
21	2021年 11月6日(土)	テーマ「コロナ禍における保健師の活躍について」 グループディスカッション
22	2022年 11月5日(土)	テーマ「住民と行政が協働した地域づくり—C町における寄り合いワークショップの実践—」 ①講師による活動報告 ②講義への質疑応答、交流会

表3. 「保健師の集い」の方法

方法	回数	開催回と内容
講演・講義	8回	第2回 健康日本 21
		第3回 育児不安と虐待
		第4回 保健師の役割
		第5回 教育・研究の振り返り
		第6回 保健師活動と倫理
		第12回 これからの公衆衛生看護
		第17回 コーチングスキル
		第18回 禁煙指導
実践報告	8回	第2回 家族援助・個別健康教育・精神保健相談について
		第3回 乳幼児問診票・健康日本 21・健診の事後フォロー・痴呆予防策について
		第4回 痴呆予防教室・母子の支援事例・精神障害者への関わりについて
		第5回 母子アセスメントツール・認知症予防教室・産業保健について
		第6回 大学院への進学
		第12回 家庭訪問・妊婦教室について
		第15回 実践事業所認定制度について
		第22回 地域づくりについて
グループディスカッション ・交流会	11回	第4回 高齢者・母子・精神保健について
		第12回 行政・産業・研究会について
		第13回 個人の問題を地域の問題としてとらえる
		第14回 専門職の成長を聴き合おう
		第15回 実践事業者認定制度の活動報告について
		第17回 コーチングスキルの講義を経てのディスカッション
		第18回 禁煙指導の講義を経て
		第19回 自分が思う保健師像を語ろう
		第20回 自分のキャリアを語ろう
		第21回 コロナ禍の保健師活躍について
		第22回 行政における地域づくりの実践報告を経てのディスカッション

グループディスカッションが行われており、在学生も参加することで、保健師のイメージが
つくよう交流がなされていた。第22回では
将来に向け保健師が目指すべき活動を先駆的
に取り組んでいる県内の町の保健師の実践活
動報告と参加者の実践活動の紹介など情報交
換や交流会が行われていた。この第22回に
は看護師として就職しているが近い将来は保
健師として就職を希望している卒業生も参加
しており、保健師採用に関する情報を得たり、
現在の保健師の実践活動を肌で感じたりする
ことができるような場となっていた。

「保健師の集い」の方法の分類は表3に示
す。「講演・講義」と「実践報告」を合わせ
た内容は、初期の第2回から第6回の「保健
師の集い」で行われていた。第12回以降は
主に「グループディスカッション・交流会」
が行われており、第12回、第17回、第18

回は「講演・講義」を、第12回、第15回、
第22回では「実践報告」を行いその内容に
ついて「グループディスカッション・交流会」
を行っていた。

これまでの「保健師の集い」の成果報告は
次のとおりである。

<これまでの「保健師の集い」の成果報告>

1. 鈴木知代, 中野照代, 藤生君江他 (2003).
第2回「卒業生の保健師の集い」をふり
かえって. 聖隷クリストファー大学看
護学部紀要, 11, 169-178.
2. 仲村秀子, 鈴木知代, 中野照代他 (2004).
第3回「卒業生の保健師の集い」をふり
かえって. 聖隷クリストファー大学看
護学部紀要, 12, 187-195.
3. 鈴木知代, 若杉早苗, 宮地俊行他 (2005).
第4回「卒業生の保健師の集い」をふり

かえって、聖隷クリストファー大学看護学部紀要、13, 55-65.

4. 鈴木知代, 山内愛美, 小川雅子他 (2006). 第5回「卒業生の保健師の集い」をふりかえって、聖隷クリストファー大学看護学部紀要、14, 95-105.
5. 仲村秀子, 鈴木知代, 中丸弘子他 (2007). 第6回「卒業生の保健師の集い」をふりかえって、聖隷クリストファー大学看護学部紀要、15, 45-49.

上記の5編で示されている第2回から第6回までの「保健師の集い」では、参加者は平均 29.0 ± 5.7 名 (平均値 ± 標準偏差) であり、参加者の多くは卒業生を含む現役の行政または産業保健師であった。内容としては、当時の社会情勢におけるトピックやこども虐待や高齢者虐待に対する支援など現場のニーズに対応した講義、参加者が実践している保健活動の報告などが行われていた。参加者の感想としては、「職場に必要な情報を得る事ができた」、「情報交換ができ、具体的に職場で取り入れる事ができる内容を学ぶことができた」、「悩みを共有できた」、「元気をもらった、励みになった」などであった。第2回から第6回までの「保健師の集い」では、現場の活動に反映できる内容であり、活動のモチベーションを向上させる機会となっていた。

V. 今後の課題と展望

1. 開設当初の「保健師の集い」の役割

本学における「保健師の集い」は、開設当初は2000年代前半当時の現場のニーズに応じた支援ができるようなテーマを選定し、本学教員や外部講師による講義、市町での実践報告やグループディスカッションなどを実施していた。

保健師養成の専攻科を持つ短期大学や大学における保健師として就職をした卒業生の調査では、「政令市保健所と市町村に勤務する

者の70%以上が、「再学習の機会の提供」を望んでいた」(近藤, 飯田, 1994) や職場外教育 (Off-JT) においては「県型保健所や大学からの支援を要望」という実態と課題が明らかになっていた。このことより、本学が行っている「保健師の集い」は、行政および産業分野で働く保健師の再学習の機会の提供や行政で働く保健師の現任教育を補うような場となっていたと考えられる。

2. 現在の「保健師の集い」の課題と展望

現在、「保健師の集い」は卒後1、2年目の保健師が実行委員となり担当教員とテーマや内容を決めて実施しており、2013 (平成) 年より「グループディスカッション・交流会」が主な実施内容となっていた。しかし、この頃から参加者人数が少なくなっていた。新任保健師にとっては集いやすい内容ではあるが、卒後20年以上が経過している保健師のニーズとは異なると推察された。このことから「保健師の集い」を全国や静岡県内でも全域に広がり、更に経験年数が異なる卒業生全てに対して同一のテーマで、同日に「保健師の集い」を開催することは、すべての卒業生のニーズに対応した内容にはならないと考えられた。

厚生労働省 (2016) の報告では、教育機関が自治体と連携し、現任教育に関わるメリットとして、「現場の保健師活動を教育機関がより理解し、教育・研究に活用することができる」、「自治体保健師との連携が強化される」、「自治体に就職した卒業生が学生のロールモデルとなり、教育への好影響となる」、「大学として地域貢献の役割を果たせる」、「教育機関は実務の場から離れているが、一步引いて客観的に課題を捉えることができる。両者の連携により、現場の活動にエビデンスや研究的視点を付加することができ、保健活動の質向上が期待される。」などが述べられている。

「保健師の集い」の今後の展望としては、まず、卒業生に対して「保健師のつどい」の

あり方についてニーズ調査などを実施する。その後、卒後の各年代のニーズに合わせたテーマを設定し、行政および産業分野で働く保健師の学び直しの機会の場となることを期待したい。また、コロナ禍以降の2020（令和2）年度より実施しているweb会議システムによる開催も取り入れ、全国や全県下の卒業生が参加しやすい環境づくりの工夫をしていきたい。

「保健師の集い」を継続的に開催し続けることは、行政や産業にとっては保健師現任教育を補う場ともなり、保健師の活動の質向上につながるのではないかと考えられる。同時に、「保健師の集い」は卒業生同士の交流の場、在校生や卒業生、教員の全国規模のネットワークづくりともなり、本学を卒業した保健師が保健師の活動で困った時の拠り所にもなることが考えられる。

文献

- 厚生労働省（2016）. 保健師に係る研修のあり方等に関する検討会 最終とりまとめ～自治体保健師の人材育成体制構築の推進に向けて～.
<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10901000-Kenkoukyoku-Soumuka/0000120158.pdf>, (検索日：2023年10月7日).
- 近藤優子, 飯田澄美子 (1994). 自治体等で保健婦業務に従事している聖路加看護大学卒業生調査. 聖路加看護大学紀要, 20, 49-56.
- 鈴木知代, 中野照代, 藤生君江他 (2003). 第2回「卒業生の保健師の集い」をふりかえって. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 11, 169-178.
- 鈴木知代, 若杉早苗, 宮地俊行他 (2005). 第4回「卒業生の保健師の集い」をふりかえって. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 13, 55-65.
- 鈴木知代, 山内愛美, 小川雅子他 (2006). 第5回「卒業生の保健師の集い」をふりかえって. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 14, 95-105.
- 文部科学省 (2011). 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告.
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/40/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/03/11/1302921_1_1.pdf, (検索日：2023年10月7日).
- 仲村秀子, 鈴木知代, 中野照代他 (2004). 第3回「卒業生の保健師の集い」をふりかえって. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 12, 187-195.
- 仲村秀子, 鈴木知代, 中丸弘子他 (2007). 第6回「卒業生の保健師の集い」をふりかえって. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 15, 45-49.
- 藤田美江, 宮崎美砂子, 石丸美奈 (2013). 行政保健師の現任教育に関する国内文献の検討－研究の実態と研究方法論の特徴に焦点をあてて－. 千葉看護学会誌, 19(1), 27-34.
- 松井菜摘, 和泉京子, 臺有桂他 (2021). 2020年度教育体制委員会企画教員研修報告保健師教育における大学院カリキュラムモデル（全保教版2020）－作成の背景とカリキュラムの実際－. 保健師教育, 5(1), 27-31.